

株式会社中榎

埼玉県本庄市



経営方針

- ・スローガンは「あそこに行けばどんな酒でも手に入る」。
- ・顧客との長い付き合いを目指した対面販売を心がける。
- ・全ての顧客向けに宅配を実施するなど、地域密着型経営。

店舗概要

創業年 1968年(平成4年)
売場面積 271.9㎡(82.3坪)
従業員 15.8名
営業時間 8:00~20:00
定休日 無休
売上高 874,695(千円)

商品構成

焼酎 16.7%
日本酒 15.0%
ビール 54.8%
その他リキュールなど 13.5%

地域観光と結びついたブランド開発で地域に貢献する酒屋さん

[仕入れ力で培った豊富で「ここでしかない」品揃え]

日本酒で約250種、常時7,000種にのぼる酒類を仕入れて、オリジナルブランドの「小山川千本桜」など他店にマネできない種類の酒を販売する。

九州の焼酎は、社長自らが蔵本を訪ね、宝山(西酒造)、屋久島の三岳(三岳酒造)など埼玉県内では珍しい品種を早くから仕入れることができた。

また、アサヒビールについては工場直送の生ビール(樽)を扱っている。これは、アサヒビールのシェアがまだ高くなかった頃から、熱心な営業マンの姿をみて信用できると見込んだことから現・社長がアサヒビールを主にずっと扱ってきたからで、ほかでは手に入れづらい商品の一例といえる。

「人との出会いに恵まれている」と社長がいう通り、商売を通して知り合った方からの紹介で、仕入れが難しいといわれる焼酎なども、取り引きし、仕



入れることが可能となり、その品揃えは、飲食店関係者が店まで直接買いに訪れている。

[大型ディスカウントの価格競争に巻きこまれない販売戦略]

焼酎やリキュールなど割るお酒などは、割り材専用の棚を設けるほか、酒以外の食材も業務用のものを置き、箱単位での購入もできる。もちろん、一般ユーザーも対象に、1本からの購入も可能となっている。小さな飲食店関係者などが希少な酒を買い求めて来店するようになり、まさしく、プロユースの店づくりとなっている。

規制緩和で酒販の大型ディスカウントや大型スーパーでの安売りに対抗として価格での競争はしない。これまでの信用により、日本酒類販売株式会社など卸会社から有利に仕入れられるので、同店らしい品揃えと、宅配など顧客サービスで信用を得ている。卸のための営業マンがおり、そのルートなどを使ったり1日の宅配は100件に上り、地域密着型の酒店として定着している。

[地元の名所をアピールするオリジナルブランドの開発]



同店の近くを流れる小山川(こやまがわ)の堤防に1,100本の桜があり、春に「こだま千本さくら祭り」が行われる。地域と連携し千本桜をぜひ多くの人に知って欲しいと、埼玉県産米を使いオリジナルブランドの「小山川千本桜」を開発した。

日本酒の「小山川千本桜」は深谷市の滝沢酒造、焼酎の「小山川千本桜」は秩父の矢尾本店に製造を委託した。300ml、720ml、1.8lのサイズで、日本酒は吟醸生、大吟醸。焼酎は金箔入りなどもあり地元土産品を意識している。

平成22(2010)年から販売を開始。埼玉県のバックアップもあり、同店を中心に、飲食店など地元でない手に入らない酒として価値を高め、桜の季節などにお土産品として人気を得ている。

店売りの6割が飲食店など業界関係者という特異性がある。それもナショナルブランドだけでなく、希少な焼酎など7,000種に上る品揃えにある。

今後物流も含めて、地域から酒の販売を変えて行こうという意気込みがどう波及していくかに期待したい。大手ディスカウントの進出により中小の酒店が苦戦しているなかで、地域のオリジナルブランドの開発、飲食店の経営など新しいことへのチャレンジは参考になる。

[飲食店との連携や農産物市の開催を計画]

同じ敷地内に、飲食店「千本桜」が同店の開店より1週間早く開店。同社とは別経営になるが、店長は同社と取り引きのあった飲食店で、金澤社長が認めた若い人に全面的に委せている。

また近々に、敷地内で農産物市を開く予定。農産物市など今後、地域と一体となった取り組みが期待される。



[倉庫・物流機能と併せた総合的取り組みを計画]

今後、200 坪の倉庫を建設予定で、そのうち半分は日本酒類販売株式会社の倉庫となる。日酒販の北関東エリアの物流拠点になる予定。将来的には、同社の仕入れ力の強化され、地代などの収入が見込まれることから経営の安定につなげたいとのこと。

【店舗立地】

旧・本店は本庄市の住宅地にあったが、新店舗は工業団地の幹線道路沿いにあり、広い駐車場を備えた郊外型店舗。関越自動車道の本庄児玉インターチェンジから近い、国道 254 号(児玉バイパス)沿いの工業団地内にある

【店舗実績】

昭和 60 年に本庄市栄に店舗建設、平成 24 年に本庄市児玉に 新店舗開業。

店舗敷地内には、酒販売店のほか、同社の開発ブランドである「小山川千本桜」(日本酒、焼酎)を扱う飲食店「食事処千本桜」がある(別経営)。

将来的には倉庫を建設予定。広さは 200 坪で、うち 100 坪は日本酒類販売株式会社の倉庫で、日酒販は北関東の物流拠点と位置づけられているようだ。



代表の金澤喜作さん→